

平成 26 年度の鳥取県立博物館

1 総 論

施設設備の老朽化や収蔵庫の狭隘化、駐車場不足など当館の年来の課題について、県議会や監査委員から抜本的かつ早急な対応を求められたことから、昨年度の館内での議論も踏まえ、今年度はより具体的な検討を行うことになった。

そのため、全国の博物館事情等に精通している県外の有識者と、県内の学校や社会教育、商工や観光の関係者で構成する検討委員会（鳥取県立博物館現状・課題検討委員会。会長は元文化庁長官の林田英樹氏）を6月に設置した。同委員会は8月から翌年3月にかけて6回開催され、①博物館のこれまでの取組の点検、②ハード・ソフト両面にわたる課題の把握と整理、③整理した課題への対応策等について順次議論するとともに、県外の先進的な博物館等の視察も行った。

また、並行して現建物の劣化状況調査も実施した結果、今後も継続使用するのであれば、屋上防水や外壁、給排水設備など老朽化している箇所を改修に約12億円が必要な他、学芸棟以外は耐震性に問題があることが判明し、その補強（耐震改修）に14億円程度かかることが分かった。これらの改修は、新たな博物館の施設整備の方向が決まり次第、できるだけ速やかに実施する必要がある。

こうしたことも踏まえて、現状・課題検討委員会は検討結果を取りまとめ、平成27年4月に報告書が提出された。同報告書では、基本的な在り方として「新たな施設を整備して自然、歴史・民俗、美術の3分野のいずれか1分野を移転」し、「現施設を改修して残りの分野のためのものとする」という方向性が提示され、それをたたき台として「県民と対話しながら」検討を進めることが求められていた。

これを受けて県教育委員会では、当館が平成27年2月に実施した県政参画電子アンケートの結果（3分野のうちいずれを移転すべきかとの問いに対して、美術分野を移転すべきとの回答が5割を超えた）等も踏まえ、美術分野の施設（美術館）を新たに整備し、現施設は自然・歴史博物館として改修整備する方向で検討を進める方針を、平成27年4月に決定した。

通常の事業活動では、博物館資料の収集・保存、展示、館内外での普及活動などを、例年どおり着実に実施した。平成20年度以降毎年5本ずつ開催している企画展については、今年度も自然関係1本、歴史・民俗関係1本、美術関係3本を実施し、夏季に開催した「胸キュン☆サング展」は1万人を超える来場者で賑わった。

普及活動では、昨年に続き世界的に著名な日本の科学者を招いての講演会を開催した。平成26年度は、小惑星探査機「はやぶさ」のプロジェクトマネージャーの川口淳一郎博士の講演会を米子市で開催した。また、学校教育における博物館利用を促進するため、国立科学博物館との共催で「教員のための博物館の日」として、教員を対象に講演会や展示解説を集中実施した。

山陰海岸学習館については、山陰海岸ジオパークが9月に世界ジオパークに再認定され、鳥取市西部が区域編入されたことに伴い、展示パネルや展示模型の改修を行った。また、昨年度の「山陰海岸学習館の在り方について」の提言に基づき、ジオパークの拠点機能を強化するための具体的な対応策の実施計画を策定した。

（1）組 織

昨年度と変更なし（ただし、山陰海岸学習館の3D上映看視員（非常勤職員）のみ、緊急雇用創出事業（商工労働部所管）から博物館事業に切替え）。

（2）資料の収集・調査研究

自然部門では久松山が模式産地であるヒサマツミドリシジミなどを含む鳥取県東部地区のまと

まったチョウ類コレクションが寄贈されるなど、様々な貴重な標本を収集した。これらの標本の整理や鳥取県の生物相に関する調査研究を実施し、その成果をデータベースや研究報告などで発表した。

人文部門では、近世・近代の鳥取県に関する古文書や民俗資料等の寄贈を受けた。

美術部門では、企画展に関する調査を行うとともに、鳥取県の美術に関する調査を継続して行い、土方稲嶺《大黒・群鯉図》、菅楯彦《南郭春宵》、小早川秋聲《盲人図》などを新たに収集した。

(3) 展 示

企画展5回（自然分野1回、人文分野1回、美術分野3回）を開催し、博物館全体（山陰海岸学習館を含む。）の事業に10万人を超す来館者があった。

〈企画展の概要〉

自然分野：過去から現在にかけてのサンゴや生物礁の変遷を、骨格や化石資料を用いて紹介し、地球環境におけるその重要性を紹介した。あわせて、鳥取の伝統産業であるサンゴ細工など、サンゴの文化的な側面にもスポットを当てた展示を行った。

人文分野：麒麟獅子舞は江戸時代初期に鳥取池田家初代藩主光仲が創始したとされ、因幡地方（鳥取県東部）一円に伝播しているという、地方的特色の著しい民俗芸能である。この展覧会では、鳥取県の重要な民俗文化財でかつ国選択の民俗芸能である麒麟獅子舞を可能な限り展示紹介した。

美術分野：美術分野：今年度も三本の展覧会を実施した。「フィレンツェ ピッティ宮殿近代美術館コレクション トスカーナと近代絵画」はフィレンツェにあるピッティ宮殿美術館の近代絵画のコレクションの中から「イタリアの印象派」とも呼ばれるマッキアイオーリの絵画を中心に紹介し、大きな反響を呼んだ。鳥取県ゆかりの作家を紹介する「シリーズ鳥取の表現者」では中堅の二人の画家を取り上げ、「流体—松本文仁 / 森田しのぶ」を企画した。またこれまで本館でも取り上げる機会の少なかったプロダクトデザインをテーマにした「知られざるプロダクトデザイナー 小島基と戦後鳥取の産業工芸」では鳥取県工業試験場の技師として活躍した小島基のデザインを紹介し、県内外から多くの来場者があった。

(4) 教育普及

普及関係では、県民の生涯学習を支援するため、巡回展・移動博物館・出張教室などのアウトリーチ事業のほか、館内外で講演会・観察会・各種講座・ワークショップなどを開催した。

巡回展・移動美術館・出張教室は、県下33会場で実施し延べ7,517人が参加した。また、各種講座や講演会は、年間を通して111回開催し、延べ3,920人の参加があった。

中でも美術分野の普及講座は、「毎週土曜はアートの日!」として、毎週土曜日に美術に関する事業を実施し、県民がアートにふれあう機会を充実させた。また、自然・人文・美術・山陰海岸学習館の各担当の講座を有機的に結びつけたコラボ企画も定着してきた。

広報に関しては、対象年代や広報手段について検討し、より効果的な広報を実施するとともに、教職員に対する広報の一環として、県内の小中高等学校及び特別支援学校の全教職員に対し、ニューズレター「鳥取県博物館ニュース」を配布した。

(5) 来館者サービス

平成21年度から継続して、開館時間を次のとおり延長し、来館の機会を広げた。

〔 4月1日～10月31日の特別展示の期間中の土曜日、日曜日及び国民の祝日
に関する法律に規定する休日は午前9時～午後7時とする。 〕

受付付近にトイレ・常設展示室入口への案内表示を増やし、来館者にとって分かりやすいものとした。

2 各課の概況

(1) 総務課

- ・県立博物館現状・課題検討委員会を設置（告示設置）し、6回の委員会開催と先進施設視察を実施。
- ・県立博物館劣化診断・改修計画策定業務委託を実施（営繕課受託施工）。
- ・県立博物館1階休憩コーナー造作改修工事を実施。
- ・県立博物館第3展示室改修工事を実施。
- ・県立博物館1階喫茶室ガラス取替え工事を実施。
- ・山陰海岸学習館E V充電器設置工事を実施。
- ・山陰海岸学習館屋上防水改修他工事を実施（営繕課受託施工）。

(2) 学芸課

●自然担当

- ・企画展「胸キュン☆サンゴ展～わたしを深海（うみ）につれてって～」
- ・田中昭彦植物標本整理事業（5か年）3年目
- ・三島寿雄昆虫標本整理事業（3か年）3年目
- ・谷口正夫・遠藤勝壽地学標本整理事業（5か年）1年目

●人文担当

- ・企画展「大麒麟獅子展」
- ・歴史・民俗展示室改善充実事業 中世・近世の展示替え
- ・鳥取県の歴史民俗事象調査事業（鳥取県内の戦争遺跡）
- ・藩政資料整備事業（14か年）10年目
- ・収蔵資料保存・修復事業（16mmニュースフィルムのデジタル化、鳥取市六部山1号墳出土馬具25点の保存処理）
- ・「鳥取藩政資料」解説・研究事業（6か年）3年目

●普及担当

- ・学校教育支援事業の開催
- ・学校・市町村・教育機関と連携した普及事業の推進
- ・移動博物館、移動美術館、学芸員派遣等の募集及び調整
- ・各種広報活動の立案及び実施
- ・公式ホームページの管理運用
- ・収蔵資料データベースサーバーの管理運用
- ・ニュースレター「MUSEUMPRESS 鳥取県立博物館ニュース」No.18、19の発行
- ・リーフレット「2015.4 - 2016.3 展覧会・イベントのご案内」の発行

●山陰海岸学習館

- ・展示解説等の来館者対応や小中学校等の団体利用の充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を学ぶ野外観察会および自然講座の開催・充実
- ・山陰海岸ジオパークの魅力を伝える3D映像を2本立てで上映

(3) 美術振興課

- ・今年も例年どおり三つの企画展を開催した。「フィレンツェ ピッティ宮殿近代美術館コレクション トスカーナと近代絵画」は久しぶりにヨーロッパの近代絵画を紹介する展示であり、19世紀はじめのロマン主義から20世紀のデ・キリコまで、イタリアの近代絵画の名品が多く展示され、

来場者に好評であった。「流体—松本文仁 / 森田しのぶ」では県内で活躍するヴェテランの洋画家二人を紹介した。一見すると全く異なる画風の二人の作品を「流体」というキーワードで検証し、対照的かつ調和的な興味深い展示となった。「知られざるプロダクトデザイナー 小島基と戦後鳥取の産業工芸」は工業デザインという美術館で取り上げられることの少ない分野の作品を取り上げ、県の技師としてデザイン指導にあたった小島基の仕事を明らかにした。この分野は近年注目を浴びているため、県内外から多くの関係者が訪れ、民芸運動との関係など興味深い問題を提起する展覧会であった。

- ・ 2階近代美術展示室では、「近世絵画事始一流派」、夏休みの子供向け企画として「あそびにおいてよ！モ・シリのともだち」などを開催する一方、1階の美術展示室でも特別陳列として「長通寺所蔵 八百谷冷泉作品展」を鳥取市と共催で開催した。
- ・ 1階美術展示室では、展示室を4つの区画に分けて、鳥取県を代表する江戸時代から現代までの作品を年間を通して紹介する「コレクション展Ⅰ～Ⅴ」を開催した。
- ・ 年間を通じて毎週土曜日に美術普及活動を展開する「毎週土曜はアートの日！」（サタデーアートフィーバー）を本年度も実施し、ワークショップ、アートセミナー、アートシアター、ギャラリートーク、企画展関連事業等を通して美術に関する教育普及に努めた。